

を擧げ、第二段には比較的類似の實例十條を數へて之を討究し、別に餘論の一項目を設けて疑問を解決してある。下卷の末尾に約二百頁に亘る著者の自傳を載せてあるが、之によつて著者の信仰過程を窺ひ得られると共に、佛敎統一論が本書を以て結論とする所以も判明するであらう。(高西)

## 淨土敎史

齋藤唯信氏著

(定價五圓、東京市小石川區  
原町六番地、丙午出版社)

著者は明治三十四年から三年間、東京の眞宗大學に於て淨土敎史を講じ、本書はその稿本を上梓したものである。而して淨土敎史なる一學科の講説は著者の自序にもある如く、我が國佛敎の傳來以來、實に氏を以て嚆矢とするであらう。爾來佛敎學界の研鑽は著しく進んで居るから、今日の敎會史眼及敎理史眼を以て見るならば、尙批判の余地はあるであらう。しかし印度支那、日本の三國に亘つて、淨土敎を斯くも系統的に叙述したものは、昭和の今日尙本書を除

いて外にはあるまい。

本書は全編を「淨土敎の本源」と「淨土敎の弘傳」の二編に分ち、「淨土敎の本源」に於ては諸大乘經中に淨土敎が如何に説かれてゐるかを詳説し、殊に三部經に於てはその翻譯と内容の説明に懇切を極めて居る。次に「淨土の弘傳」に於ては、印度、支那、日本の淨土敎史上に於ける代表的な人師を擧げてその略傳と敎説とを説き、日本の部に於て鎌倉以後、法然、親鸞の門流について特に詳述して居る。

本書は終始一貫、眞宗の見地から叙述したものであることを見通してならない。著者獨特の懇切と平明な筆敎は、佛敎専門以外の人にも容易に理解し得られるであらう。敢て江湖に推奨する。(高西)

## 學界總覽

(自三月至五月)

### (一) 佛敎

#### (A) 敎理

般若三昧經の研究

赤沼 智善 (宗教研究四ノ二)

看話と念佛(上下)

鈴木 大拙 (宗教研究四ノ三)

釋尊の降誕と灌頂に現はれたる不滅の觀念

津田 敬武 (宗教研究四ノ二)

正理學派に對する龍樹の論書(上下)

山口 益 (宗教研究四ノ三)

原始佛教に於ける緣起觀の開展(上下)

木村 泰賢 (宗教研究四ノ三)

「大事」の地位と説出世部の佛陀觀(上下)

久野 芳隆 (宗教研究四ノ三)

淨土教の實踐法

梅原 眞隆 (龍大論叢二七三)

存覺蓮如兩上人の行信論に就て

小山 法城 (同)

石泉師の行信論

藤永 正徹 (同)

經典の研究に就て

椎尾 辨匡 (大正大學々報一)

教理の變易性

眞野 正順 (同)

禪宗と「般若心經」

鈴木 大拙 (禪學研究四)

禪經に記せる觀佛

徳永 圓應 (同)

十二天成立私考

長谷川密雲 (密教研究二四)

梵語毘灑勒沙尼

長谷部隆諦 (密教研究二四)

六大體大に就いて

金山 穆韶 (同)

南山學派と東寺學派

大北 善照 (同)

成道の階梯としての緣起觀

林屋友次郎 (思想六五、六六)

戒律より見たる佛教の道德思想

松本文三郎 (哲學研究一三四)

梵語の阿含經と漢譯原本の考察

岡 教達 (哲學雜誌六、四八三)

(B) 歴史

大雲經寺と國分寺(上中)

矢吹 慶輝 (宗教研究四ノ三)

本願寺系圖と本尊分脈の原形に就いて

中澤 見明 (龍大論叢二七三)

華嚴部の異出經典について

高峰 了洲 (同)

道教思想に影響せられたる偽經

望月 信亨 (大正大學々報一)

出定後語を讀む

加藤 精神 (同)

蓮華三昧經に關する研究

裕 慈弘 (同)

四明知禮の著書解題

大野 法道 (同)

唯識三十頌(一、二)

シルグン、レグイ (現代佛教四ノ四、五)

文鏡秘府論の引用書に就て

加地 哲定 (密教研究二四)

佛教聲樂としての聲明沿革史小觀(上)

大山 公淳 (同)

鎌倉時代の禪宗諸派と密教(二)

大屋 徳城 (禪學研究四)

愚管抄考

村岡 典嗣 (思想六七)

西夏文般若經の斷片

石濱純太郎 (藝文一八ノ五)

佛典に顯はるゝ振旦の語に就て(下)

松本文三郎 (史林一二ノ二)

中江藤樹著翁問答に就いて 高橋 俊乘 (藝文一八、三、四)

高麗史節要の由來 稻葉 岩吉 (藝文一八ノ四、五)

道成寺藝術の展開 高野 辰之 (史學雜誌三ノ三)

室町時代に於ける朝廷と法華宗

鎌倉幕府の法治主義とその影響 淺野 長武 (同三八ノ三)

西域研究 三浦 周行 (同三八ノ四)

いやわんな考 藤田 豊八 (同三八ノ四)

高麗高宗朝及元宗朝の倭寇 藤原 猶雪 (同三八ノ四)

元朝秘史之主因亦兒堅考 青山 公亮 (同三八ノ四)

江戸時代の土地政策論 王 國維 (同三八ノ五)

奈良時代の雇傭制度と賃銀の種々相 中村 孝也 (同三八ノ五)

延喜式と神社制度 瀧川政次郎 (同三八ノ五)

延喜式の撰者大中臣安則が開發せる大橋御園 宮地 直一 (國學院雜誌三ノ三)

延喜式と古典研究 江見 清風 (同三三ノ三)

延喜式祝詞の兩面 植木直一郎 (同三三ノ三)

中臣祓に就て 岡 泰雄 (同三三ノ三)

國史に於ける西洋史學 河野 省三 (同三三ノ三)

文草の在郷時代 今井登志喜 (同三三ノ四)

長慶天皇山陵に就て 市橋 鐸 (同三三ノ四)

氏族制時代の神社祭祀 川浦 操 (同三三ノ四)

植木直一郎 (同三三ノ五)

(二) 哲學

宗教學とは何ぞや 佐野 勝也 (宗教研究四ノ二)

原始キリスト教の宗教的背景 丸川仁夫 (同四ノ三)

シラーの人本主義 森川 智徳 (同)

原始民族の神祕觀念 中井 龍瑞 (密教研究二四)

辨證法の論理 田邊 元 (哲學研究三三、三四)

プラトン徳論私斷 菊池慧一郎 (同)

機械作用と身體の個性 大西 友太 (同)

左右田博士に答ふ 西田幾太郎 (哲學研究一三三)

無限に就いて(ダヴィット、ヒルパート)

認識論と超越的對象 下村寅太郎 (哲學研究一三三)

デイルタイの認識論 山口 諭助 (哲學雜誌四、四八)

アリストテレスの認識論 三枝 博音 (同四八一)

Heil 及び Heilige 等 青木 巖 (同四八三)

宇野 圓空 (同)

(三) 人文

(A) 歴史

龍山神社火祭の神事 加藤 玄智 (宗教研究四ノ三)

釋尊以前に於る人間本質論 神林 隆淨 (大正大學々報一)

天草本平家物語抄 龜井 高孝 (藝文一八ノ三)

濁點源流考(一、二)

泉式部傳の研究(二、三)

蜀山人評傳

家持の假名管見(二、三、四)

漱石「枕草」小論

西鶴近松用雜考

宇津保物語の作者及年代に就いて

元祿甲戌の支考

宗祇法師と其生涯

草本懋慈錄に就て

雍棺に關する一考察

河越氏と源義經

支那古代の長城に就て

善光寺文書と其本尊

英國憲法史主要參考書

會堂の起原と其性質

日明貿易の發展に就て

唐の長安義寧坊の大秦寺の敷地に關する支那地志類の記載に就いて(下)

吉澤 義則(國語國文の研究六、七)

岡田 希雄(同六、八)

金子 實英(同六、八)

高林 誠一(同六、七、八)

木枝 増一(同七)

佐藤 鶴吉(同七)

金ケ原亮一(同七)

各務 虎雄(同八)

小島 吉雄(同八)

稻葉 岩吉(史學六ノ一)

森本 六爾(同)

中島 竦(同)

橋本 増吉(同)

國分 剛三(同)

占部百太郎(同)

三浦 周行(史林一ノ二)

那波 利貞(史林一ノ二)

蝦夷淨瑠璃考

詩の誕生

四天王寺繪堂九品往生の歌詩

氣韻生動

生命の樹

連歌研究の序説

正徹

好色一代男おほえがき

芭蕉不易流行説について

十九世紀前半の佛蘭西畫壇に於ける寫實主義の變遷

ニーベルンゲンの歌のテキスト問題に就いて

金葉集考

萬葉集の性質と其文學史的意義に就いて

悦目抄の原本和歌大綱に就て

源氏巻歌

源氏物語のあはれ

聯對法の根源

黄表紙と對象の世界

明治初期文學斷片

源氏巻歌補遺

國語の音聲上の特質

金田一京助(大正大學々報一)

松浦 一(同)

高瀬承嚴(同)

伊勢專一郎(思想六五)

土居 光知(同六六)

山田 孝雄(同六七)

岡崎 義惠(同六七)

阿部 次郎(同六七)

小宮 豊隆(同六七)

小林太市郎(哲學研究三三、三四)

雪山 俊夫(藝文一八ノ三、四)

岡田 希雄(同八ノ四、五)

森本 治吉(國語と國文學三月號)

佐々木信綱(同)

高野 辰之(同)

庄司 米藏(同)

徳田 淨(國語と國文學三月號)

小柴 值一(同)

藤田徳太郎(同)

高野 辰之(同)

神保 格(同四月號)

(B) 文學

古代英文學の背景

黒田 正利(龍大論叢二七三)

日語文の本質

時枝 誠記 (語國と國文學四月號)

假名交り文の起源

吉澤 義則 (同)

方言の本質

東條 操 (同)

假名のつかひみち

藤岡 勝二 (同)

傳説文學の本質

倉野 憲司 (同)

短歌の本質

坂口 保 (同)

長歌の本質

久松 潜一 (同)

歴史物語の本質

沼澤 龍雄 (同)

説話文學の本質

齋藤 清衛 (同)

歌台の本質

上田 英夫 (同)

古歌謡の本質

藤田徳太郎 (同)

軍記物の本質

高木市之助 (同)

法語の本質

築土 鈴寛 (同)

隨筆文學の本質

佐藤 幹二 (同)

連歌の本質と特質

志田 義秀 (同)

御伽、假名、舞の草子

島津 久基 (同)

謡曲狂言の本質

佐成謙太郎 (同)

浮世草子の本質

片岡 良一 (同)

黄表案の本質

山口 剛 (同)

讀本の本質

鈴木 敏也 (同)

滑稽本の本質

麻生 磯次 (同)

狂歌狂文の本質

山崎 麓 (同)

川柳の本質

田中 辰二 (同)

人情本の本質

山崎 麓 (同)

落語の本質

山崎 麓 (國語と國文學月號)

新體詩の本質

岡崎 義惠 (同)

自然主義的文學乃至文學運動の特質

湯池 孝 (同)

近代劇の本質

新關 良三 (同)

物語の本質

山岸 徳平 (同四月號、五月號)

日記紀行文學の本質

池田 龜鑑 (同)

淨瑠璃の本質

藤村 作 (同)

洒落本の本質

山口 剛 (同)

歌舞伎劇脚本の本質

守隨 憲治 (同)

日本短詩に於ける五七形式の美的意味

渡邊 吉治 (同五月號)

古代人の生活意識

木村 秀吉 (同)

指定の「なり」及び同類語の研究

松尾捨次郎 (國學院雜誌四月號)

中井履軒の國文「しがらみ」に就て

齋藤 惇 (同五月號)

鈴木重胤學説

星川 清民 (同)

# 學界彙報

## 佛敎學研究室

□五月卅日(月)午後三時第十三教室に於て例會